荷問答

上本
末

曽4
775
150

1音4
775
136

蒔岡答序

志学乃うち志心ゝまりを身をおこるゝ所さ在とゝもと
発始まくりひろく浮門教門れとゝ〳〵とゝ在て
まるふゝ〳〵ども也波海波道ゝてそのみち偏僻なる
その法ゝ人倫日用れ変用り多ゝあるゝ〳〵
儒門よゝく四書入経乃主教とゝ事切磋琢磨と
ゝけまるゝ〳〵ども二隅と反せざるゝ乃下為れ
用借れ自己をよびゝくすゝ道ゝ多ゝ在ゝ〳〵
ひゝくゝうちをゝ以為者乃あるゝ〳〵れ性の
ゝまゝゝさゝをわすれ布て師範のゝ人ゝあるゝ

うゑびの哲れ先覺とうかゝ
天君とゝ先覺と爲しき老藤あり爲くなゝ乃ゝ
志まゝ清ゝ乃ゝ几杖とりく海内我眼力伯樂
かゝゝ乃ゝ鎮駕れまゝ八ゝ
人あい和厚まゝく通遠なして俗儒乃傲家とるはゞ
志くゝ口常とるふちゞ心乃ゝ
晴の日を待ふ清ふ清ゝ乃ゝ門下ゝ許元ゝ俊秀な
る人あるゝ平日鞍問海鞍やむゝ
こと成きくゝ我乃ゝ乃ゝ
うゝびるふ心乃粗西とるこゝ乃ゝ海鞍

ゝ書つけ遺志りとるゝ斯してゝ
箇条とあゝまゝなるまゝふまり分ゝおこなふ爲ゝ
をこゝ用惜り仰ゝ藤あんだりまゝ我ゝきの愚者
ゝゝ第一工夫のゝすけゝとなるゝきゝあるゝ
藤問答ゝ號号して巾箱ゝくゝ爲るゝ
ゝゝくゝ乃ゝきゝて加ゝ君子表剛正ゝ
爲きゝゝの事なゝ孫ゝ只愚志乃ゝきつけるまは
て藤のゝ家ふゝきゝふゝ乃ゝ
らゝ辞ふて志ゝをこゝ乃ゝ古人乃大事爲る事ゝ

大正二年一月吉日
中村楠雄氏贈

藤岡答上巻之本

○祈

藤岡問曰人間はいかゞせさせ給へるものゝ如くあるまでをこゝろふこゝろをもちぶべしとおもふ人間一生流れ出るの色とう変用は業と往へくらも

師の曰ふ人乃身のうちふ玉法身道といふる天下を双乃霊寶ありこの乃たゞ住と身ゝ心ゝ乃ふ方ふ住ふる身領ゝを教へ給へ心ゝ乃ふ中ふ小あきらゝ乃ふ乃ふ乃ふ

くまりまで天子ハ四海の富を為りて法度をなく
一國は家老とうけ卿太夫をその家をおこす　士を庶民
にいたるまで伝をあり庶人ハ放穀をつくせるとくを失
せずむしろの上に安をとをそハ人倫の名をばけんの名
為さるものなりびて天地ハ人をもつて天地ハ人をもつて
のこりびて太虚の神化ハこれ太虚三才宇宙
鬼神造化生成とくくに為ものと包括する也この
ものをとりあつめて偏者の学問しいたれ為ものよ
ちくしたがつて保合ハ行ふべきと云かくしんよりく
保合してよくあつまりてこれを興人といふなり孔子
為世の度をとゝ嗚呼ものあり代為ものあつまる流ふ
孝経とつくり為ものいとも秦ハ代為ものあつまる千八百
餘年のあひだ十分よくあつまるびはるる人まれなり今大
明の代ハいたるまで代理をとるべき伝表事をする人あり

大森を代をとゝ保合考をもひく廣分中を天子の
ものをハ天の代行ふ文王ハこの為ものと保合しのひく
天帝の左右ハ行ふ湯王永をこの為ものとまるもく
天ハ滅女をつ月をの呉二を代定をありく宿要の
天刑とまぬ為ものを左未霊験ハ行ふ
く伝ハして変用をびたるなり　祈元曰高ハ
にハ海ふりもあまりさ事をあり廣
大なる為ものをハ代為ものとびかくおのれ
ハの日をあり心也廣大なるハ我人のとゝぶもの
ハたゝ日月のごとくを廣大なるものの
ハまれくるハ行ふ二の為ものをとゝ廣大なる也
為物男女をとゝ為ものをとゝ為ものを
人ハまもくハ為ものこのたるをとゝ天をあ
をとゝ為ものを地ハ為ものとゝ地のものとあり人ハ行て

そ人のみちとするものも元来名はかけもとと成生ふ[illegible]
ちあまんとふじ[illegible]人その光景をかくどりて孝となづけ[illegible]
その名をとしちとしいとしその点実の道理をとを師宿儒
和見抜群の人さえさうゆ事神明の人さうゆ世俗孝を
親ふ法ふ[illegible]一ちとして浅近なる[illegible]孔子
なけ[illegible]神明不測大深遠ふして百世の心育をひらんあふ孝法
孝法ふ釜明ちふ孝法の感通をてぢうくなつけいて愛
敬の二字ふ法ぐまれ[illegible]ふ[illegible]む宗旨を敬を
上をとやまひとかしいあれ[illegible]孝をたとへば
なる法のごとくびふ[illegible]新を条ふてぐみのうちの熟
ふ[illegible]ふ法の体ふれ[illegible]
そのごとく父子君臣乃人倫ふ[illegible]ハまるもハまるうづ

ふしなりとれども恭敬の工法を通せざるところなしはは
大概を論ちふ先大論をとしていへば敬を恭敬する感通
の根本なる所ふ孝分の名をあるとあ[illegible]孝行と名ぶくさ
てそれ[illegible]成通れ孝敬ふ[illegible]
[illegible]二心なく君を恭敬をとふつく礼義なくし
臣下をあいけいすると仁をあるばくよくとて[illegible]
ちをと恭をあづく和順して先を恭敬をと博をなつく君
をせめて身をあいけいをと恵をあづく正しき道をまりを
て夫をあいけいをと順をあづく義をまりて妻をあい
けいすると和をあづく伯をあづく明友を恭敬をと伝をあづく
一身をとりつくいて耳目乃聡明四肢乃恭重行住坐臥の法
則皆孝法恭敬の感通なるさるかくのごとく親切明
白法ふれいうる無疑不肖れ[illegible]のれたづのめ膝下の赤
子までをとよくちりよくおこなひまてまく至極れ全社を

歴人と云ふ法なりの也まことに不二乃要道学及乃
主意分しと也下和ら壁とかりて世俗乃間とてこそまた
半なけうしたとかりべ　　伝光曰今までハおやとよく
屋なるべく孝行なりとて毎日乃孝行なりとて
ちとみるこうい法先生のとくけ行うと孝しい人
るとのハ所しなく間しなく孝行のまりおこなふ
屋さ術とそうく兼たくい　　師の曰元来孝ハ太虚
とうく全体こして兼切と屋くしおりなく始る
孝のなれ附かく孝心かさりのかし　　全孝圖ハ太虚と
孝れ体法りてんちたんぬつとそのうちれ萌芽と
なりかくのこと虚大云色るる法なれと兼ものの方拘乃
うちよ孝の屋ぞれ屋くさうハかし　　統中人ハ天地の法万拘
の霊なるゆふ人の心と方小孝乃実然れそかうりふ屋
方とうく屋とおこふとうく功夫の要ハ法とれ

もく孝かく孝とうるれ為ものふ方ハこそみち
ハおこふ孝行の深法ハ拘ふくつふる刑方を
たく屋ハおこれふ一半かり方とうるこハ法方ハ
ぐんらい父母ふうけるとのかれでもう方ハ父母の方
思ひさるくうそりこ不兼屋とおこりべ拘ぐの
方ハ法方りひさでめくいうも大切ふ毛敬して拘
法の屋ぐくなれ大海一粟乃方とこ法也こそ元来
とうくりさかくみも毛でもう方を父母ふけ父母の
方を天地ようけてんちを太虚ようきるとのかれ
ぐ来こうう方を太虚神拘の分方変化なるゆふ太虚神
拘の不神とあさうふこそうるぐと方とこ法を
高太虚神拘乃りんこ法とあさうめくさうる方法
りくく人海ふ海ぐちう兼るゆふ庭こうれ屋とおこ
なくふかくのぐ方とくく道とおこふと孝行の

親しむ親しむ親しむ親しむ君臣とつつ
兄弟ハ情をおこなひ夫婦ハ義を厚くし朋友ハ信を
厚くし夫婦ハ順ならしめ
小人ハ利をいとひ義をこのむ
動られるよりあるべきと孝行の余風
ひとびとの一ぶんの孝行の名聞あ
人間ふくまつの法ひとれ私
多分私ハ孝ハその私と
主人公なれ孝法のなかに
多分ものとも実の偏者よりあるべし
禽獸のちちうきの人なる
差別あるハいかなる所をも
の位ハ人たんあるを天子一等諸侯一等卿大夫一等士一等
庶人一等をつくる人等せてん

作元曰孝行ハ人等乃
師乃曰人間為畢

乃ちなるなり諸侯ハ國をおさむる大名なるなり
失をてん諸侯の下知をうけて國天下のまつりを成
る法ハ卿大夫ハ法をひろく政の法役をなしむ
るさまをひろくなり
あさ人と商ハこの農工商の三ハ
なり孝法を同一体なれども位ハ
ある人よりその人なるなり
失のあふ分辨とこれをなり
のごとく人等のなるハ
方分のようなれども
庶人の位代ハ人員のなる人等乃
乃孝を奉乃

作元曰孝法後場の章小侍の
人編をとどめあげ法なり中於事君ハ
ハいかなる人なるなり

師の曰君父ハ恩ひ

さとのおり又生く君食はんとすれば皆いかりとなつ思ひ
親ハ始かるゆゑに孝れんげんとすれば中ニ放
事君ニ第二ニよりて孝法義ヲ立ん始ハ感通すル
例とかくの如く兄弟夫婦朋友のたがひのうちうつくし
ふ孝法の篇未ひらかず事君乃一変と発明し
ものをいふなり　神充曰天子ハ孝行ハいと
師乃曰ヒ教ハ孝法と天下ハ孝法と天子ハ孝行
ふ法えうをうを法と名ふりて第七乃大本とてくく
さぐる賢人と尊敬して宰相ハ賢人とあげ
いして忠節ふちうびそれ〳〵の官職とさつ小
國の君下とあるごとくあるを礼楽刑政学校乃ち
へいく〳〵天下人どもそのむ心乃孝法をおこし
その利と利ごとき孝ふ〳〵ものやうの百
民と尊敬されて四海ふれその法教ハ化し法ふる

ふひく家ふ孝子國ふれ官ふり天下一統ふおさまり
万ふれ孝ふ心と治ふくその先王ふつ孝ふ天子の孝の
大概なり　神充曰法侯乃孝行ハ
敬の孝法とその國ふ治ふふ法侯の孝行なり　師の曰ヒ
先君ふ心ごそ孝ごしく志ふ法侯の孝行なり
孝のおこれ言ふ行ふ國ふ治の法侯とくまり家先
大臣とふ中ひふ〳〵の君下と体して信ふ〳〵かを
そあるもふれとなそ志ん乃心ごて為君とよく試く
お教法孝行の徴とそ孝ふ志ときと深して百姓と
あるれ〳〵なんぢく鰥寡孤独貧困ふ孝ふ〳〵ものとん
ごくみ國中ふ民乃ふ行こぶ〳〵法とん〳〵國ふ〳〵さ
ふく〳〵社稷と孝ふ〳〵その先君ふ孝ふ〳〵ハ法侯の孝
行の孝ふ〳〵なり　神充曰卿大夫の孝行ハいく
師乃曰ヒ位高ふ孝ふ敬の孝法をいかさふふするう

卿大夫の孝行なり心と力とをさめ候初の
行法人の手本とかりてひとつとあぐるぬ格は
よく律〻しき君のためてんかのあくまの乃ひ
道徳をそなへれいとる利害のちりことと家の
ことと心よりけずおさまるもしる時を天下出家あんあんの法
ってを試みるに時を大和となりて軍兵をさし
法乃人軍法ようくうあんを流どめてしに百我百勝の功と
たくよくをそなへどとりちくその宗廟とまりりぬ
ゆを卿大夫の孝乃大ないなるを　祇光曰士乃孝行ハいく
師の曰うそあよ上ん分くをとて〻君と尊敬
するんどうおりびそれ〻の減分とよくまりはめて
その長成うやまひ境者よ世のりくいつうるくんあ
ひ屋りうに祝んごろまして世ちゆるまひとをつきい
やしんに心〻分うち義理よるひ簡要乃礼法

藝能なとうくしんびに軍陣よのそむうまくハ君
長乃勢よあ時を樊噲ともあさむくたの武勇とい
だ武功とくその祝位となりて祭祀と成りを
好きをさひ乃孝行の大ないるり　祇光曰庶人のま
行ハいく　師乃曰農工商いづもとその不作とよく
はしめおこしびに紡績とたくまくむさしたひ費さた
分もち心でくよくつくしに公役とおそもく法ふそむ
びに部分書るのことと第二うに父母れ衣服食物を
事一よおりひ入心力とたくしてとよとぬきんとも調く
父母乃うけまろこだく拵ふりてふしよく屋しなを
庶人の孝行なり　祇光曰人等れ孝のうち只庶人
よどうるを父母と屋しなふと流まふハいるゆくよくおひ
ましを　師乃曰士よううハ紡ぐりうりされば屋
ちふ事ハ云ふとよたび庶人を紡とまりうして十ようよ心

をゝ〻ちゝを法くさしまて衣服食物等ゝざる也人よ
庶人ふでゝるを書を出家法ふ人等ゝれをのゝ〻ぬのうち
少〻第一おりゝをゝろをとゝ〻ゝ流行ふ人理ハゝれお通
を通よゝ〻〻神祇をゝべし　　伊充曰人等の孝の説
をゝ事行ゝ人を親を敬ゝるゝ孝行ゝ〻〻
なくその法をあゝゝゝすゝてを続〻乃を孝ひ乃而
仏を精よ入〻法もゝるゝかゝ〻れ宗ゝ〻出産を通
師の曰ゝ通ゝ〻〻ゝ畢竟ハ法をあゝゝふを孝ゝかゝ
〻れゝゝ〻ゝ少ゝ心ゝむゝゝゝる一念をおゝてあ
ゝハゝゝるまゝ孝ゝゝゝ

臣下と一ぢんなる夫と妻と一位なり兄と弟と一ぢん
なりとてたがいのまじわるを一ぢんとも云とかいと
人間の次第差別こゝろの人つよきさんまて世をふ人倫ふ
りまこゝろ人ぐんハ人心なりの釈ハ意よりハかりくふ
ちくよくおもを敬するを親の友と云君を仁よ臣下ハ忠義
と津てくく君臣よく交泰する成義のうちこゝろ夫ハ
義ふ信ハ順すくく夫婦よく和合する成別の友と云
兄を恵よおとくくハ弟ふ兄弟よく和睦するを序
のうちこゝろ友だちのまゝりたゞひとり津ちなく
なのりくよくおもくこゝむと伝乃うちと云成義別
序伝の人つと人曲いくこゝろ人ゐるを人こと津よ仁義礼智伝
の人乃性をかりをくく一ぢの主本こゝろこの人乃性成
ゐくく人曲のうちとゐるを父子の親を仁ゐと君臣乃義ハ
をおいち義なりと夫妻の別を智也老初の序ハ礼なり

朋友の伝ハをかうち伝ゐるを人倫と人曲と人ゐる玉理成
ちくゞるを人ハ人倫の友こゝろ皆同ふありてとゞ心の中ふ
なりとものかくくこゝろあくきくこゝ天地たん地つ
られ神ハ霊光のうちふ造化ちりのゐるようくくとゞ
心乃孝法あきくゐられた神明乃道くこゝ四海よあきくゐ
なるゆへよてんちでんぶつられとゞ心孝法のうちよあ
るとものこゝ法よゐる人を心を方のうちふだりあるこゝ
根本を心の内より生れ知るを方れりこゝゆへよさとりたる
眼をを内ふ面ハ面ハ生れ知るをの差別かくくゐるを人乃うちと法ゐ
とくくいとひをくく内ふ面ハ面ハ面ハ生をの二見とたゞ法ハさとり
よ似ゐ方法よくなり人乃うちと法ふ分て法すれバ
人典十義とゐるを人乃先ゐの孝行と云を人間百行の源
人倫第一の急務なるゆへよ座人の人教よ父子有親と夫ふ
説法乃孝法とあるくゐふ世ちよ人乃うちよ父母乃恩徳と

紀氏まへ〜胎育のうちあまた十ケ月のあひだ母を懷孕
のゝちうまれて十歳九歳の月ゝ父ハ孕子の保全產
育のあんぢなるべき事をおもひ千辛万苦をこと
ゝかふるあまたび源產の時ふいうて母乃身をさきを困
しの惱をうけたゝの心ハ粉骨乃ごとくにくだり苦して
母子あんぢなれと一命再產のうちこゝろをつくしてハ母を
うる祈〜こゝ母〜子をたすけるの願ふ如さしたゝよく
祈りれて母の身屈伸をかさび身ありつゝさあだしてしゆ
あひうゝあるゝふださ嗚とかくに安産身のたくらひをい
せうをしゝ子乃安穩をうゝ母乃ハ純合なる義
をこうまもゝ屋〜如を落とりとめ祈よいのを身をし
てかゝんをとりふ乳哺ニ子まのあひだ父母の苦勞その
ゝをゝ入学のうふなり如ハ師をもとめ技を成
ゝ藝をなゝ往古法宏人ますぐもんを祝祈ゝ既ふ有

宝のゝふいうり如を伝儀をもとめ家業をこゝくゝをさら
つんをと涙祈ひその子女法人ハ海ゝ志をよく業
如を限ゝくゝこひの眉をひゝさもしまゝ女法人
小若志あるをゝゝぶれをおぼふゝゝをなゝ
せうちゝくゝかくのゝくの慈悲をくゝの苦勞をつ
ゝ子の身を屋〜ゝひをゝくゝたをゝくの子の一身毛一
をゝふいるまで父母の千辛苦の厚恩ゝかゝるハふし
父母乃ゝんをゝくゝてんをもあゝく海ゝをもゝ〜あゝふ
庶大母乃恩ゝ如〜ゝんゝのゝさ凡夫をむくゝんゝ
をゝをゝ人〜ゝ恩あゝゝゝんなゝ大ゝりハゝゝゝゝみゝを
人間のかゝちあるゝとあゝいゝゝ悪癩不肖のゝつのお
しつのあふいゝをゝくゝゝ一度の母んをむくゝんをゝくゝゝハあ
ゝゝ恩をむくゝんをゝゝハゝまゝ法のゝんゝんあゝゝよその
ゝ法のをゝ〜ゝのゝゝれゝゝゝ本心の孝法あを

て父母の恩をしらんとおもふ人は、わが身をたすけんとおもふ心の深ふ
なれば、はなはだ日のひかりをもかくさず、心の深ふ成ぬれば、五年
は一毛をもとゝのふる父母の厚恩、祈願して一飯の
恩をもかんずべしとなれば、日月の恩の日のひかりを
あらはすがごとく、父母は厚恩をもとゝのふ心をもとゝのふ
かたちなく、冥加をもとゝのふ心の孝念
は、孝経の厚徳と、孝行のすゝめと
乃大孝、仏教用ゆべし。昊天罔極の厚恩、心の
底にいとゝかなしきは、いまこのまゝ死なんかなしさを
のがれおもひ、鳥獣の親をおもふ羊の跪乳のう
やまひをなせるふんぐんの形をとゝのふるものなるべきを
なり。心のやゝふかくまことなる仏教の今はあるをいふ
かりてをしへんの心をもとゝのふ人のいふ
富貴をもとゝのふ人は、人間一の祈ひとすれども富

貴を求ることをけしからぬ人とおもふ。
恩云乃いりとうけてとも、恒恭して辱めしめず父母をも
あるかゝよあり。一云の恩とは、とうあるべきを
はたらくあさまあるひは父母はむきく書あ仏
窮愛あるひは父母をもてそこもぐるとあり
りまく親乃慈悲あさくこゝ実に尤あそびの色を
うゝ仏教くこゝろにくれるひとをせり富貴をもと
しるたよりとなるべきをもとゝのふ大切のふかい我身をう
ばる恩あるふかくなり書あと汚色するはもゝ身れよ
く仏ゝげくせんむひもとるはもゝ身ともけ
なる人なりこの身なけもとゝ富貴乃ゝ節をとゝぐべき
たゝなりまく書あをたのしむべきをとゝのふしまく
るよをけあるべき身かしに富貴をさいせうとゝ仏身
ありてのをあゝもこの身をとうとうる人は父母これ

身をうしなふ者は畜類の形体とうけさせいせうのた
つしことをなし子孫そだてをしを後のたすけたまれど富
貴をうる人分のみし根本は父母の恩なり畜類の生ハ
子孫をなしとこんげんは父母の恩なりるの屋しなくと
うるしこんげんは父母の恩なり行ひ正しくれ父母の恩なら
ざる分なり父母の恩を廣大ならしておんの大根本也
三ツ目ハ父母を尊敬するをとなり一ツ目ひろめく俗の
人倫を尊敬するをとおこなふを孝と云順逆ともに大こん
行の初なり父母をあいけいせずして枝葉
のちいさき事をとしくおんと他人をあいけいすれと不孝
いひ憎逆と云憎逆の人ハ半とひとなり紙人をすべれをりこと
を実れ人をいはゞ神明の罰あるもの之
教のいろ〳〵にのさく不義云道の撓化あるふとくふ孝
なるをとこ逆よりなる行ひ物を実りとおりひゆすとみとを

一ツ目まことひろうれ逆ひなるとその面ハ礼義をしらく
かさけ物くあるを一日ものとをぬ左行法也ものを骨肉
のおりひとをしくまれとまく悪をもつくむふべし志なる
をとを教の道ふくあそびひなるあるふ孝行なるハおこなひ
なすをさ坂寄なれどさして孝行と云べきもあるすおのろ
うを見あさくあそびをなるふ孝行なるを法しをあ
をぐれ孝ふるを大罪のおこなひ孝行まくよく体
恐すべし昊天罔極の恩者をさおもと毛頭なきをち
極き法也の人と同しくこひなるをあさまきを法ひこと
まをひ物をさ人をうかれ天罰をうるをもおそれたをむ
できこをなり孝行の糸目なるあるとくとし早竟ハ二ツ糸
よつてまをり第一ハ父母の心志安楽の教ふうをなるなり
第二ハ父母の身をよくうをやをひ屋しをかり父母のこの乃
安楽なるをうふすふハ先まを身をおさめうをと正しくく

好人となりそれ〳〵はたらきをなしたる父母の心ふかのあまりにさまたひあひ災窮ふとぶ〳〵さ
ほそまになりさまざまあまり法あをよく教化して家内の人
礼儀をあらためげ家をとり下して父母をもあ敬しかりそめ
の下知をもそむかをこしてもあ第一族和睦するやうまれ
て父母の用小物迄耳小入て礼父母の心よろひくとのづ
ゝあ示小なるとの也ゆめ〳〵ひくくうちうふ志ぐひくす分
心力をはげ若弱をかへりみず家財を妻子の私用を
第二すして一家のうちまでその合掌の滋味をそれ衣服
の粗懐をさけいふしう病らぶをはくゝ父母のうち事よ
りこゝろやうふうかりしまこをまひあるとれハうれ当の
療治をしあ発病の弱をはうゝあるハよく医しなふの
なゝハ也もしまゝ父母不義あゝバ何と礼ゝ父母の盛悪
あれ恥ふいさむゝ〳〵ごなるさとれハ是悪利害をわたるふ

ゝうのゝ〳〵祈をゝ〳〵父母よりこんぶていう祝
ふをはかゝ〳〵をこゝろこゞめ孝をおこう敬を起して
恩のいをよさゝふたゝんかくのをくいくゝびいさあ
あるひハ恩のあいをちの友をたのをくいさむゝ〳〵おのをふ
いり徒のあれうふなるをうあするう孝の第一なるゆへなり
父母ハ天年をさをありてなゞさわを是忘を是ひをはるる
時をゝ形〳〵ひの法をはゝ〳〵礼法をうゝ葬をなり
喪ふあゝ〳〵哀戚をはて宗教祠堂をまて〳〵魂神を清
くゝ時俗節忌日を祭を洗敬をはくゝして合葬の孝
をゝ〳〵さんしるをを子の孝をしをなるを釈の子を意愛するふ
を道義をを〳〵〳〵子の孝を法成就するをを本を為庭
乃若弱をいさゝうゝ〳〵子の祈ひのゝ〳〵に育てゝるを始息
の愛を云始息乃恩ををは紙墳乃愛をゝ〳〵年のををを
をつゝふたゝ〳〵ゝ始息のををハさゝをうてハ慈愛を似さ

もとしもその子氣性ふなりくしかるに法しるくこうけば
りのふちくなりぬるとて畢竟そのとおくくけつた道
へひたいくにおもへくその人へわうこそおもふうあれた
きかもとりたくはなかなかおもふけくちもこそ分けくその
方くはうもものるれどその方はこんげんおもの方れを
ふもとしさくそくそくけつたみちへこたいくはおもの方は
無尽面おくいくにこなくげるゆふふよくとくまるハ
大ふまの第一かりさそえいるとおこすし子孫かり家を
屋ぶるし子孫かりふ孫ふたどおもくまくくふ孫の繁昌
とりくしるかあくくけりこしとおぐふまむくしふ孫の
うあ面つさあ面くけりて一流よとくの法とろんで
かくくしくしくもまづたどとくて心の主法とけた
らふるこくくの根をくくこんの方藝人ますくれたあハ
せ方おくくにんのかまれあくくこうおぐ

けくくんこんの孝法ふたのハてんち鬼神のよくくすくなる
ふくこうるれて一位えいくたにおこるくいくくるからば一代
二代のうちふふ孫没滅するものたとひぜつめつせざれも
あるこういなれ人へうくえ祖乃生性この人よいくうく
和陸せさしこふなれにひくくまくる人を服ふ一たんの高
尖不まれとのくこ上乃とのなくくこひくくうぐめるくおを
ふれ玄法玄昊宗とたれるくくぐゆふたくさのこあ
なぐふくけもたそのかハふたいくぬとのなくくおりひな
未見抱とこみぐくくこ上のなくくある事とこうべこ
下よ法ゆくさて子孫ふてゆくよハ幼おのこさを根むこ
ひくくハ胎教とくく胎内ふるあひくくし母法の変化あ
こいあ時の人を玄法とこうぐるゆよおさふれこうくハたて
をるさりのかくくし四乃尖れの玄実とこうべくくこ口
くくいくくくなりくくこうとかくくこうふくこうおこうこう

伊勢也根本実は表は法華なれども裏は
真言なり真言は表は法華なれども裏は
真言なり表は法華なれども裏は真言
なり表は法華なれども裏は真言なり
人間のじんれつさてはばかりあるべし
そもそもいまの京田舎の方角水土の風気ふるく
ものとしてかんがへざるべし國土の

[illegible]人どうやまひあるとぞ
法なり法下り尖絆大小のうるおさはあるてさ
つくるたうとさこゝろあり[illegible]畢竟仁礼の二法
より生ずる所なり惟天地萬物の父母惟人萬物之靈とか
たまふ時そこんこんそこくこくこく

大小の差別なき君の心法をむかしの君のひとりとなりて君の恩ハ
なれど君よりたるとく心とは
なりて使ふまつる也 親ハ子をうとく育しるゆんなると君ハ
この身を屋しの形ひとまふおんなると也 身なり
君のけまハこの身の屋しるひるしれいのちをもつおん
なれ也 よ君をうるいのちをそなすたるなれ也
大君の君をハ大なる也 大君と云小君ハ君のその
ちいされ也 小君ハ君乃さふ君乃さふ君乃
なるくふのあ家中乃あよりれ年ゆれと西くんの家
らびおこれひ形ふ屋うよくいあとなるこの
ひ年ふれる河 貴ゆれ 家ゆれ 屋あなふ屋ふ
よくいあそしゆくん乃心をそ分りちみちにるひとを西
たふをるるくさうを形ふ一心りあり入をう身
のあとををしうそうんで形遠江干のいきめそ
る心を西りまわる身をそそく君のあのく第一ゆを家ゆ
大君といふ君ハ家老ゆれ乃君をれるり 老ゆ老ゆをそうふ
主君君下知ゆをくひ一ふ小君をうゆをひ身をすそく君の
うるくの織ゆを勅ゆする小君と云これを小身なる君
下乃君をるり軍君をとりくく海すれを二心なく身をすそく
礼義なくくふくけ敬ゆく英雄の心をとり軍兵を
形ゆをうをを幅のうちふゆをし勝を成子星の西り
に決一百戦百勝の功をたつる成大君といふ 老ハ軍大将君
君をなりふをなく身をすそくされ家ゆ 濃成
法紀首をとる成小君と云これ
てゆくく廣人をを刺菓の君をふのくふ居く老業
と使くめ生紀をとくる君主君乃君治ゆるゆふちゆ
うをそれをもんくを云なりうその國乃をを紀法度をよ
くまりそ乃をくくをくつくめく年貢公役を物

忠孝ぞ一心不二君とおもひまうさん人の忠なる
ハ君ハ仁礼の治りたまひ臣下ハ忠敬
のみちとなりて天下治ふまり君臣交泰なる所ハ
天命のおもとなるゆへ人倫の義なるゆへ人倫の第二不
君臣有義とハ夫ハ和義とり書といさるふ所ハ夫婦
たる治りハ義ハ臣ハ義ハ臣ハ義ハ裁判ハ此ハ
つる治りハ大抵先義のあるひ親子兄弟骨肉のたく
義理のたいだんなるふるまひ親子兄弟骨肉のたく
たひとハ云ハ臣ハ義ハ臣ハ義ハ臣ハ義ハ臣ハ義ハ
國とうしなふ古来その人ハ家ハ夫婦
のまじりそむきくまし仏法ハ人ハ夫婦
らな人心のまひりそれ書ハ先祖の嗣祭祀のあすけ
ふ孫お孫の寓ふる所人倫生ハ人ハ始りて夫婦和

合すへ所の人倫なりたるもとし義理のたいだんなるもハ先
欲のわくしふおもて家道ハ夫婦ハ別ハ乃治ふ
ふゆへ和義ハ夫ハ妻ハ夫のつまとなるハ
ハ夫ハ妻ハ順正の二治ともて夫ハ治ふ
業情よりのいひなぶりなりたるまひまでもなりたに
なぶ治りハ正ハ義理なりたるなりたるなぶ
夫と天とうしなふ夫乃家とふ家とふ夫婦一体のもの
なるゆへよわらな生の父母とせ父母とせ父母とせ
とふ所ハ生ハ人のさてふ所ハ不易ハ
天則なりたるゆへ先男ハ男ハ男ハ男ハ男ハ
すなく貞男乃治とふりなりたるなりたるなりたる
たしくおつとよ下ハ夫ハ妻ハ妻ハ妻ハ妻ハ
宗族と和睦しく家人ハ家人ハ家人ハ家人ハ
夫ハ陽治ふ治ふ治ふ治ふ治ふ治ふ治ふ治ふ

て法則いとなむ事を法治ふ事をば国と云ふ男女法治国の
治をば法といふ男女法治国の法は父子兄弟夫婦朋友
義別かくのごとくきこえたれば父子兄弟夫婦朋友義
和睦して和合国を治ゆへに夫婦の道は人倫の
始なり天命の教なり夫婦の道は人倫の
第三なり夫婦有別と説給へり
第三を敬ひ尊ぶ事
くの如く他人のごとくなるべからず
なり他人のごとくなるべからず
て敬ひ尊ぶべきなり
うちとけ慢ずべからず
おしくとひさゆるべからず恵は友朋の二義なり
恵を施すべからず
そもそもの道理なり切磋琢磨すべ

ちをい御あ恵施とあらふ者と勝しるとを
他人のごとくわるべからず他に対すべきなり
なり他人のごとくしいとけなる恵を用ゐる
さけ慢ずべからず人倫の道なり
うけ合形連家の人のれた友朋の恵を用ゐる
日用御の義也この人倫あらたまる
事なり孝ぶし兄弟のまよ人とれど多分兄弟のあひ
他人のごとくなりわづらのよくのあひたてる
此のごとくしすぶとあり合形連家のこうとこ
為ゆゑ義務をそこなふあり
此事なり孝ぶし兄弟を敬て生也
也ども兄弟の序よりも兄弟
あり恵施の序を序とし
法治序をとのつらなる

と流布す

明友はたゞひよ伝とゝりくゝ和さしるゝ所なく
義理ふかふ治ゝり友達のまゝ〳〵小心友面友の差別結
義れ親疎なゝ〳〵ありといへとも事実ハ礼伝のうちを
もゝ出たゞひのこゝ流さ〳〵和ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵しむと
雖友とゝふこゝ流ざ〳〵ゝちがひ地でも筋目あゝ式ハ同
雖あゝひハ同友同職ゝゝふ〳〵こゝ和ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
ゝゝ礼礼面友とゝふ一日ゝゝ人心面友のうちゝゝ心友
面友ゝゝ小情義の親疎ゝれ礼ゝゝゝゝその用ゝゝくの義
理よゝゝゝひゝ〳〵威義ゝゝ〳〵〳〵〳〵接拶和厚ゝ〳〵ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ礼ゝ義ゝゝ礼伝のうち
乃大ゝ人なゝ世治ゝゝ心ゝ実小ゝゝひゝゝゝゝゝ
義理とゝゝゝゝ礼伝ゝゝゝ四ゝゝ大ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ実ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ義理ゝゝゝゝ

伝ゝゝ実小四ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

もし天叙のなり君臣の義を立て五倫の大義明倫の主本也
夫婦の別を人倫生のはじめ孝悌のもとめ
三つのものを人倫のうちにふくれ深重なるゆへ三綱と
づけ五つ五常ゆへ三綱と云ふ
三綱のうちにふくれ父子はもっぱら君臣の義を包
きりそのうへ人倫のもっぱら親戚の恩愛を孝
人格の中に義をふくれ一番ゆへ父子有親と云ふ
君臣の恩義をしるしゆへ
君臣ふつふ孝とうして
第二ゆへ君臣有義と云ふ夫婦の別しかりしと
君父ゆへ夫婦の別をふくれ第三番ゆへ夫婦の別と
云ふ兄弟は天倫のうちにひ骨肉同胞の恩なし
ゆへ第四番ゆへ長幼有序と云ふ朋友は異姓
同家の兄弟なゆへ天倫同胞のうちにはいらぬ

ふくれ第五番ゆへ朋友有信と云ふ君臣父子の
親と云ふ孝は三綱の主要百行のもとれりふくれて
なるゆへ孝を
ふくれ父子の親と云ふ
て孝道とあれ孝ふすゆへ朋友の義とは
するゆへ
乃以友輔仁と云ふ
と云ふ曾子
と云ふ孝行の
ゆへ孝は五倫の
ゆへ孝は三才一貫忠恕
○祖元問曰今生の行者少く人倫のまどひ夢幻
ごとくなれど人倫をよくおこなふ
てこれを孝行あれとこれ
ゆへ向人乃仏門
但去の浅海ときれなくひくたる
師の曰それ
但去ハ

皮膚とそいまゞ骨髓とをくさとゝゞろゆへよ生死色
明を生死の別とをけくとゝと立てその破壊の悪
と庶人天端しるつけあるひゝ是よ仏ち此くゝ云とのを
行人姿の見ゝるゝ〳〵ぬまとのれたくくし庶人の
ゝうみまとあさたとゝもくあ会の起滅とゆめのごと
而りゝのごとなしいんいんたゝくくしのうちいと海
会悪のまなるゝ成毒会とおゝくくゝ変幻のゝくくゝ
ゝんそあるゝ〳〵さうやまゝと物祈ゝ実事ゝ夫事徒ハ
中和と体法ゝ色数とゝ実ゝ方すのうちゝそゝゝと
て大者小充塞ゝ会と包羅ゝ上ハ世始ハ法ゝ逆
下ゝ会窮れ未来小微ゝ生死色ハ世の高ゝ尽つなく
ゝゝみくゝみとゝ神ゝなるゆゝよ如法面ゝとゝ法事無ゝ
ゝゝるゆゝくゝ会法ハゝゝゝ見ゝ向上の見ゝ向上のうち
ゝれゝゝ向上ハ海ハゝゝとゝくゝさゝあ素其位而行不

願ハ平其外一下學而上達ゝ一貫の心法不貳の妙理
なゝ現在当行ハ人曲ゝを用ゝて別ゝ向上の一路とゝ心と
ひゝハ世ゝゝ人ゝ日月とそむきて竹とゝ花ゝゝゝゝ
庶人のゝゝ世ゝ行きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
而りゝゝゝあゝ而ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
と為ゝゝゝ人ゝ第一ゝ色ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○祈光同日世間のゝくゝんすゝゝ人と見ゝゝて学問の道
ゝいゝゝゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
師の日ゝん者ゝの生ゝつゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝけハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
悪者一ゝ不肖去一ゝ凡ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
生知無ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

こゝろあるゝ人百生とうとく法をとうとぶこゝろあれば
人面獸心とゝかいふもこゝろにんぶんをこゝろをけゝとものをお
かゝしてゝ世界を悪れ世界をこゝろなひ世治の法
よ人の法ゝ勢をうたいるゞくいあさまたるれ
かくりん人人間第一の名誉すくれてゝ
ゝ正しのかくりんはなくゝ知ゝゝゆる人まれるをばゝ
ゞ人ゝすゝゝ世間よりゝゝ学問ハ学問をもて
世れかくりんとそれなるものの益となかたつくかゝさ
あゝく是風ゝなるものゝかくもんゝ正しゝ奥のゝちゝ
ゝ成ゝ第ゝゝる人ハ不審もむゝ
りんをれひゝつなゝしゝ成ゝ人ゝゝ正しゝ奥ゝ二ゝ
あゝゝ有せゝゝハゝ学問ゝ光明ゝ成ゝ
師の曰正しのかくりんを伏機のゝゝゝあ行為
なりひゝハゝゝかくもんゝ正しゝゝゝのかゝ

師元曰かく

ゝ小世のゝ名ゝるゝりくゝいつゝかくゝりつゝこゝゝもえび
ゝて学ゝ学問の小せあゝゝ出来ゝくゝゝ奥ゝちゝゝあゝり
て正しゝ裏徴ゝ表ゝりゝりつゝこゝふゝと一世びゝ小せゝゝの
ゞゝりゝ時あゝゝくゝ正しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ正
しゝゝ西ゝひゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

志を海内に及ぼすべき人のまなこをもて似てものぬし
ちゝゆへ（よにせこ）はゆんに正しきまゝ自ら志しまた
うちびいなを（ちびと）とは為てみりゆへ（ゆゑ）に世こを
人をまもをまは既てみ万星乃ちひとなるとなるものか
ちあはりの社会べし
くくおり海内
りんの行いとくくもに世ましくに正しに世ましくとの行つ
ひゝとゝ（ひかくりんとこれ天皇を抱む準的しする
ゆへりつゝもそし夷国ちもも世界乃ちもをを
ちへまるべこちの社ちの天皇の神祭ふなひめりを正天
のをゝ（ゝ）学りんゝ儒学と儒学と言を
天皇の神祭をしたるはをのがくりんの乃ちそ
くくゝ似ちはを八俗儒墨家楊氏老氏仏氏など
ちくく俗儒を儒学の書物をゝ刹紙（せん）を海内

視聴をとりもちうゝ平ゝ京紙をゝ使ふ
ゝをとおこなをゝのなり墨家を儒学乃至公博愛
のことまれびをこるひくなを未先后の声をゝ
楊氏を為己快快の愛を海内をこなひく一貫乃ちをゝ
ちゝふゝの形り老氏仏氏八方外体の神易の皮膚を
ゝ中和の骨髄をゝ
流行くひちまちゝ俗儒し仏氏ゝ二つ形り
海内のうちふくを世ぞくのをゝもんをゝ
俗儒の孔海視聴を俗儒のかくりんハ正しのかくりんを
をの海内ちくくをゝ志しの立場をゝかくりんの法
小くゝ千百里のあをまりをゝ
ゝゝ

仲元曰孔海視聴をのがくりんをハいかゝ
なる学問をゝ歴を
百家の書をのをゝ文を叩法をゝ

学をかぞへ利保のもとめあるのうてんの驕慢いと
はるれど俗儒の記誦詞章のかくりんしるなり
仙元曰ここのかくしんをいふべうるかくもんをいふ
師の曰まつ明法とあらうふるところさし此相むこ
とをこそあ四書の作れ心と師ら意事指掌の境
界を語るしるし此の実殊とみるに等れ学の
人倫のうちの志者とくこそ知ひ太和と保合して利
貞なれだけふ意くりうしるくら我を四海をたづ
天下をおさめ伊尹太公れ事業とるし時あひしく
窮すれ財ハ心うその身をとくし性をたし命をいく
つくし孔孟れ教化をあれかくのごくまるべを志のか
くりんと云なり　仙元曰俗儒乃ちむ出し四書を作れ
志儒のちむ出し四書を作れとてこうかくりんのさのちがひハ
あるまるさとふくるはちむ出うをれしものかくいあひさ

俗儒れかくりんかくいあるくるしるくるしるくるし

て我心をかいりせい人の心ふたがりなれば
云行をかいり座禅時中も言行ふそむくべからざる法なり
と云まのかくりんと云なり座禅中の心をかくして
て我心をたづねくもとの八始終をぶらく心乃うへ乃学なれ
ば心学とも云なり八心学とはあまねく平人なり
聖人のなるあるいはなるものまいまく聖学とも云
なり俗儒ハ別結だうりと平ハ学問ハ云まで
なく道の精義をそこわすれまして心をとうて
師とするもの也あるもんぞうゆへ四書六經をもむしい
へし門弟と流通〳〵ものとうりまく
心をもとの本体ハ自満乃塊のごとくなるものなれ
ども本体をかくしかくあるこの事むまく座禅四
書六經の心を師とするとうくに我心をてしらうするもとバい
まこの心をけをして俗学ハ
ふたとれをあのうつとめうしまた

さきハ云ものうまく学のあひさのかくりんなれど心学とハ
いたして学の学とも云なり此学の学ハ云ハ
俗学毎月もも心をて学問ハ世せくの先生なるものか
なれどもさく俗学とも云なり四書六經ハ心迹別結のしやだ
つあるもとよく弁ぬまてこと申ものしまて正しく聖の
ものあるものいたしてかくぬるく　仙元曰正しのかくもんを
俗学ものうえハいあるものの益なりまやかりくあるさ
ハなりたるもんしい　師の曰正しの学問をして成就す
也バ心あるものの学問なりて人間の務ハ我のものふうな
あるものハなくハこれなどよ益のあるものまくしうふあるべし
学ものあるべしてこれなるの益あるものまく
仲元曰おのれせいこうハ我とうしうこれなるんの務ハ
あるくなりしまく人とも俗ものうハ我俗切業の人ます
なれ富貴生生れ心のまくなるんを我務ハなるものか

くちんして方法功業の人よりすぐれいんとそなりてかの
富士山の麓ひのもとに住りんとそなりてかの
孔子はくるまをえらまはび簞瓢陋巷不堪憂命
のりとうあるこころをおもひとる石屋流れの水の
ひとすぢのもとにあるがごとくなりて合流せて
こうつるがごとくなり　源の曰これも心迹の差別あ
るべきなりとこそいらるるひとたるものは
そうとなくして聖賢の心を高尚ぶるがごとく
これ世俗のまれびとをうまれ福ともめ初とけば
ゆかんとそなりたるこころひとすぢにて
をもひとすぢにばかりつる祈がひのまふそ凡夫の祈りに
ありひのまふしめるこころはいとなるこころあり
みそのうへ凡夫の祈ふ富貴はいとなるこころ
也小富貴の因ふ至富貴とこそ廣大なるなり富貴あり

ひ大富貴はぐん城の月よりはみてぬゆふりとめ祈ふるこころ聖賢
はひ大富貴とおもひのもとにまつるこころ小富貴とおもひ
ふれ多くひとく求め祈ひなりはり祈は流合欣水簞瓢陋巷の
貴賤をおたまひそしもこの志ふるこころ奉ふるとおもひてぐん
城の小富貴とおもふるこころ　ひとすぢにおもふるこころ
ひとすぢにおもひのもとなる富貴ふるこころ
五欲を忘在不成ふるとかるこころ　ひとすぢにおもひ天地と
ともにおもふるこころ　ひとすぢにおもひ彭祖七百歳喬松子
ぐん城はふるこころ　ひとすぢにおもひのもとなる生ふるこころ
ひとすぢにおもふるこころ　ひとすぢにおもふるこころ
○俗元問曰士儒ひとすぢにおもふるこころ
ひとすぢにおもふ　作乃曰儒仏
老荘士庶人ひとすぢ八八等のひとすぢ
ひとすぢのもとにおもふ法侯卿

すなわち湯武革命の天子法侯卿大夫士庶人の志
まさにかくのごとくしかるのみ乃不得已のいたれ
るべきをいかん天命なるかの生民よりこれ
なき湯武をみ等のうちまつりごとの実績実績高
ほどふまるべきを言葉乃法とあるべきを
此の如く富貴なるとおごるべき実績なる
ものを治めるしかるを他すなわち
俗儒のかくもんとして
り海内や　時乃日義とそなわるべきを
もてまつりのうたがいなくこれ
ちなのおこなわるべきかの
よくこれを維持せんを
文武の道ならんかの
よくこれども義やうふじがとあり

神元曰たるべく
祇元曰たるべくお
ひがしまるべきを
ひとりこれ義家の
解もて
ひがしあるべきを
心の
心の
の
の

めぐみ海のみちとせをうけ給る成文と以て天命とおそれ
恐さるあくぎゃくを道ゆるしのあるを文とをこなひ
対をあらひ刑罰をもちゐ世間をあらためて
ちく天下一統の治となす武と云ふ字は止と
戈二字とあはせ武の字をつくりて文とおこる
ゆえんなれば武なれば武なの根本文の武なの
ちりいそがしむる文道なれど文道乃根本武の
かゆゑ文武二道ともに文なり孝悌忠信乃
道とはそもそもおこりは文なり孝悌忠信乃さかりと
なるものと退治して津々あるおこりは武なりしかも
表裏の陽ちゆうちゆう秋冬の陰ちゆうちゆう
春夏の陽のけしき第一生成発育なる
なり陰陽二気しかるあるいはまた本因一元家の
御乃なりちゆうちゆう本文武同一の法のれと武なりちゆうちゆう

文なれば秋冬の陰のふしてまた表裏の陽なれば
ちゆうちゆう武なれば表裏の陽のふしてまた秋冬の陰な
れば武なれば文なれば仁義の吳谷武を兼道の吳谷なり仁義は
おのおのの人性の一法なりよりちゆうちゆう文武とおのおのの一法なり
両方別なるものにあらずして仁義乃法でよくさとちゆう
文武のさとりとあさとしてはいかにいかにさとちゆう
なれば実は文なり武なり仁義よりそむきさとる武谷武な
ども実は武なり武なり武なり正味でよくさとりければ
心の間いちちゆうちゆう第一のさとりおのおのしてまた
文武なる法と乃本末あり仁義文乃法すなわち文流乃
根本なり文学礼楽書数は流乃表なり
義は武の法すなわち武流乃根本なり軍法射御兵法
なれば流すなわち武法の枝葉なり根本の法と第一つとあ
まるべ枝葉の芸と第二なり本末をそなへ文

武合一なる法、実の文武といひ、実の儒者といふ也。文
藝ありて文法なれども文武の用なきたぐひ武藝ありて武
法なれども武道の役なきたぐひ、ことに拙なれども本の実を
ひすぐしあるべきぞ。武藝ばかりにたちまさるまひ
花車なるとを文といひけるいろなりと武用ふかく
うるおさなしいかもあさましき異のさたなり用海なり
見ゆれども風ふかうとぐるしぬるりのは武用久し
ぐしく人あるとこ法況勇ともあづかうり世間武功ある
人とみゆる大概こり況勇知おようこのやう
まうけくいろまして拔群よ胆病なる人あるこ法と半
質虎皮と生とうひつじもむしもふくろさるやう
ありあるぐりのも虎八人とけぐりのどもくいろすた
けき勢なりひつじよりうの皮とさせくみもどうけ
さあけくさきまぐれごとにうぐひつじなるふう

てみけふちびくいとあるこ海しさ姿ひなるこ云ところ
ありかくのごくの為ハ服おふせくうんなれども用ひすう
人世よまれなりみこう
体元曰左ゝ武藝文藝
卯の日それハ知れ左
きいうぬのうく世庭や
うくれ不どもそこうこ
いうこそ拙むの仁義ども
ぬハ不未ふそれる多誠の
いう義ふ実ふある人ふ
の国ふ主廣なり不未先後のこう海人簡勢ふくい
作元曰ゝまつふそれいうる
ゝんや　卯の日未成ゝ
ゝこうひしゝ文ゝこうこ
卯ゝ為ゝくうう人古未
ゆへゝゝくうこう海人左

久小軍と相成り流人となり武用よ
いくしくるべしこれこそ
なるべきまくに沉勇うせんよりは
絶りくるまくに意あるものなりと
なるさとの小腫病なるしあるべ
みけるたけにおくびやうなるしあるべ
とあるべしみけり沉まれたのこうの勇怯を
禁ずる月日のまるこまくく

○体充問曰勇ハ仁義の勇血気の勇ハ二つあるとう
事ハ如何いかなる者か仁義の勇ハ君子の義理をおも
師乃曰血気の勇ハ小人の欲心の為ひとしとなる
こなるハ君子ハ先聖孔子ハ欲心の為ひとしとなる
仁義ハ義理をとくとおこなひ主従のあふ命をお
もんずるとあるべしこれを徒ごとくなれど毛沢

死をかえれ生ぜむとする心なり一つ天地のあひだに
行くくしるべそこれりのるしみ万人の敵あひてと虎
狼の孤程ふむ一つるとくとそこ
ものなるべけるげれ仁義
とこの勇仁義乃ちふ
なるふもくく仁義の勇くしい
仁義大なる勇なれんまくく
ちる志実の武ちるいちさ
無義不義乃わさまくなく
あるち酒をおそれ
ちくかくくく人の得
そもでうとも仁義の勇ハ
乃わさまくるくく血
ちまひいとあさまくく

仁義の勇ハ天地のあひだに
かくのとく天下に敵な
ちる海
大勇乃ち血気の勇ハ
ひさ極くして人
虎狼の事をげふひと
死をお
義不義
虎狼の
ハ

ゆゑんなくして死するものあり四家の
勇者ハ筆竟よくこれを知りすべて勝いくさを武勇を
とけし者前乃ち一騎人をもて敵軍の時を待の主君
をもてあるいハ武編者石来の用しかくの
ごとくなれども四家ともに武記の用まて
されど四家に勇しいふ四家のくけたるいふてよのお
をもゆゑなれど三才一貫乃大たるこの用ハたるべし
小法四家の役ハ三ごろ用ハ来小勇ごもなづもう
作元曰大勇小勇よりもひやう法や　作乃曰大
勇ハりもひくいつさもなくまりもひくあさ
ゆゑ一約法世外の海乃まりもう大勇なくてを
おこなふもあるべ軍法そハ大なるしもや
小ものもくいに小勇の人を武用ものの役すく

つかくまくしひしやまハよくくもと大なるハよ法くくべ
ひくもを法法ものに小小勇乃大なる勝利どうなふ
ものあげくかをふなるべ法ゆしひなる事なり
○作元問曰軍法ハいかくなるひあるくを添れ用しこ
うゆゑ海ものに大なるものくくるもあるものくを産
や　作乃曰軍法ハ大なるなるものくくるもあるもの
大なるの軍法ものをくるもあるもの米まくれ
ものくるものくくるハたくくくくくくくくくを失くれ失くくくくくくを
覘(てん)鬘(きん)用用きまるこなり年正(きやう)を足なり旌(せい)旗(き)金鼓兵
具乃こくくくくくくくくく

なれどいづれもとすべきこと
所なりとして考へさせ
ける流と為ばそのたの
ばあるとなりて勝負
その流あまたあるとし
眼目手足なれと口伝
とあるとも云へるくは
百戦百勝の功をたゞゆへ
くを足るとぞれと級軍の
あるこさたとなりたる
とせば皮膚毛髪とと
んを等しあさまし夫軍
英帝の代まるくそ
伝受こされり日そ

まりなくて出とよくまもるべきなり軍法源流
とありのまゝ心得ゝ
まくなるひ
にのゝ
大れありその
変の見れなれ
ちく天下のわ
の工夫なく
ゆへなり軍法
入くく文武合一
軍法の本書
を以なひ眼目
くは

仙元日傷門の心学
軍功とたくその名

りて人心学のみがきなくてハ軍法のまなびをなすべからず
学ぶまづ儒門の心学をときしめそのうへ軍法を学ぶべた
るがゆゑにもとよりこれを不審ものんじ作　師の曰
たるこゝろひとつ大和の才と医術とにくらべ人を
心学のみがきなくして軍法ばかりをもつぱらとすれ
ばその治ゆるにあたる才の拙くまたよ病ひ治ゆるかたべを
こゝろえしこのこと不義をたのみ人民その
毒をあらためざるものもあれど人民をうゝ
を為とはうべしかるに滅するものなるとその治療ハ
りうこゝろをもつてなるべし才のゝ道にし
大将ばかりを為なるべからず孫繁昌しるべなり儒漢
れ史書ゝ考へるべし史軍法の功いを国家安徳武
運長久すゝ為民を免ぐまんあるふつてもん
んもその毒をあらためを為ハうんもはたゞ滅する

奉なれど軍法をもしんこゝろとするに幸意ハ愛
益のいろゝのなりをもつて法孫とのことりつゝうゝ　能力
よ任して仁義ハ法なたるたゝ韓信伝項羽の才あるもゝ
いとも言制の敵よりも有たくしてまして仁義
の師ハ敵せんとして立車よむる蟷螂ゝ太白漢
ハよ齊の伐撃を魏の武卒ハ銳の武卒ハ
秦の流士よ勝しあるいハ秦の流子ハ桓文の言制よりも
百倍ゝ桓文の言制ハ湯武の仁義よ敵をゝ
百倍ゝ孫子の玩味あるべしゝ孫子のみちを
第一ゝ呉子の兵法を和とゝ
和ゝ以ゝ礼ゝ仁義の法のゝ儒門の心学のみよ
法とあるゝ礼ゝ心学をもつてその法を
ゝ孫子ゝ呉子ゝ孫子の軍法と学ぶ
明なるとゝ軍法と学ぶ天下よ敵なる

仁者の軍法とまるべきうらなり

○仲元同日古のぎんみをいはゞ

名せるの法侯の法士とかゝ

へしぎんこの法をうさぎまり

さたの部この見加ひるを共し

たをひいき法のあるとの

たをひしりてなされて

ん〜作を毎　仲の日を法

たの法海ちくをなくに君ちほ

たに士をかくしてひとしせんの風合あくぎん

のさかうあさうかうゆへ心ぎんふなりまく

ゆくしみくうに根をひの京上中下のこたあり時法

士をあ法ふ名利私欲のうを法ひれく仁義大富ひを

てを武をそれうをうとを上とに十分を時法をあさうう

かゝ徒ぎ芸林宝利欲の迷なく功名義と方をうく

守りをと中ひなりくしひさどう義理ぎてどうて心

うを林宝利欲立身とのくしむをとうをとを下とれ仕下京の

をとの深山よりためくくみくう君をうの品用心あるをさ

うをうをさて法士をぎんをれるあこつあると法と才能し

功とかう三つのうちつをうを上中下を法八文武合一の時法

なり才能ぎんう国家の為事をうをこなふ文芸武芸の

才智芸能なり功を成八天下国家のためとの功をつくを成を

を云奔走の功とのく成八天下国家の為とくい成八天

下国家のためふなる事を始くを法をあるをうをを大欲

をなうなり武功をたをうなるを皆功なう法と才と功し

三つをぎんこの程をさぎあ上中下のくくその分際

お意の初めをなうを友義をさうなる古来をくひのぎんし

をうを捨てくを今を才と功とのをうをくを法のをくハ

うをうをまれなるををみをう

仲元日以前時の功と才との

ぜんこうしゅうれいはよくこうこうにんでもあるべし　師の曰功と才との
名はしるしとむしろくこうこうにんでもあるべしぜんこうこうにんでも
てくろうとよりあるいろのくろうにんでもあるべしのおさてふるつまはたく
あるべし　作元曰しるしのおさてハ才と功と徳と根本うち徳ハ中和と
師の曰しるしのおさてハ才と功と徳と根本うち徳ハ中和と
りろくたかしるしの才と功と義理とうれいなどを実の才功と
あるべきくこうこうにんの心ろおもてのうつくしきうつくしうえハ
徳のぜんみとあるやまるでうつくしうなれて人君はてあるべしうつ
まりてあるくのぜんみとさしめ才と功と徳の至賢上中
下のこうれいさぶあるべうこうにんはてそでくく毛ぬあるやまるな
けまでに法士のてうとあるべうなくなりうち実の徳と才と
功とうちとしげまし正とぬしうち世つとはくそとの
なりこまでしるしれおさてうの服のうなるに用としたおさて
ありてもこまでしるしれおさてうの服のうなるに用としたおさて
たうれいうちとうにんでもあるべしさうもの

○徳充問曰君の徳下とといあるべうよ徳のいうるよくの徳ものや
師の曰主君の徳下とさしたるべうにんでもあるべしうちとうの
りうくくてうそめるしにんでもあるべしうちとうの徳才智ある
肖その分くおもうの用ぬるべうくくしくの徳才智ある
賢人とし与徳よあけたとそれ第四の法合でうらうし
才徳分ぬ愚不肖ものうるるとあるべうその
えうるおとくくうつうとうんくくうつうとうんくくうつうとうん

しなげよきつひあひくちにかけてその人のえうとも
にしきつくしざるをんれむげしもく君のまへちくさ
つふたきほどのさふいとどりのまとをとをよきつひく
まをへぐりとも心ぐそとをうんつるべれやぐへづてよひ
つぎそうつひくかをそれにかけしちくべさかり
なしこうゆへよおひのよくしうのつゆあやうれ
どうなるしうやうのあやまりれを君の心をくれまよ
ひるもおこをもうを君のほとゆふたへど磯石の
ちをどをふぐくゆへけるうさあうるをうふぐ
ふくをもうなれた磯石のくろぐよのそはをざるどく
をんの心ものさへへでゆふいくをぬるなり
心のくれをんをかほくれたまをひどあつめをれて
とそれとしりひぐゆ君の心をむくをくをくせ
ものどうをはひ年ふるものうをゆへよれさふ

らいその歌中ふあるをなれよあかをを君の心にかくれ
どその心をくれひくれた士たるでをうつふいあまもぬ
ゆへよをものしをよぬうを恋をとをぐくいうをくよく
なるものなれをかをさををせをものをを歌中をありてもなれ
ひくをほのをれかれ国のみををとあををを
年竟ををのうをかひくをほををををさをかを
ふべきのうて

○法光寺日法度をををををくををひくをくをををを

なほ未あり君主こゝ法あらずして法をおこなひ國中
の民むらがりてみだれ政の柄むなしく法度の筍
糸はまつりごとの枝葉なりと君のこのむところにそなへ下
くみれまつりごとをもつぱらにして君の心あらふ道をお
こなひ無為にして法度ハたゞ人のこゝろ物
ゝなるものなり而して法度をもてきめそむくものを
とゞ刑罰をくはへ未だ光をこゝろにそなへおこ
なひ無しかるにさきの人よりのかたをとりてすでに未
だ法治をひらくこゝろなしこゝに法治
をもつぱらにして法度のなり秦の
始皇の志をきゞ法治の道ハ絶しかれども法治をき
びしくしみだりにものゝ始皇の代をかゝみらしく
みだれなほまつりごとをもつぱらにして時おその君者
よかるひとなりとなりとゞ時のやうよりそなへ
なるに人の心をおさへしかるを混乱をとゝのへんとおもふ
いとゞ濁り濁りて人のなりいろ〳〵をけがそ
のごとくなるにつゞらくうるはしくもとゝのへ法治法治
のみをおもふ人心をおさへ法治を紙心をおくして
人の心をとゝのへんとおもふ人のすなはちその
法をもつてものゆゑにこゝろをとゝのへ法治ハ我人を
たゞしくせんとおもふ人のなり
なれをぎんとなりこゝろ法度をもつぱらにして君の心をたゞし
君のこゝろをたゞしくせんとおもふ人のなり
法度をもつぱらにして君の心をたゞしくせんとおもふ人のなり

を法法とく事どもてうくさめぬるもの一編にさぐ海
りうるとゞ孔法しいひく事ハ孔ぬるもの名と法文を忠迹
ゝ孔別あるを用れなるふ孔しうる事ハ聖人（天時地利人
情の五者とゝりうくさまふ法文のあるかりを行と
ゝ孔ちよ孔るかりうこうろれ本宮を心と云そのあるこうろ
く立法の不立をとくさして南代の法文をさらしる
ゝかみうゝ孔のものあるこうろ孔ゝ聖人の心よりくうなふ
と五者の法法ゝんをうて海ゝとゝ孔まゝ孔て事の行
ゝどうゝとゝ孔ゝて事ゝ孔ゝて勝相の孔法と云
て孔ゝうゝて事ふ事ゝゝ孔ゝそれを孔法文ハ之君の心法
とあゝうゝて孔ゝて孔ゝを孔ゝ孔法文ハ之君の心法
ゝ孔る聖人の成法とかんくそのなをこをさうまうこと
しのゝゝゝ孔ゝ孔ゝ孔

ひて耕作の時いとう田ふ稲どう人田畠よ萩どう人て天時
地利うれとくうるひとて他人の田畠ようはけぬもて
我用よたくぬうへよつくぬすんうめあつ人これハ時
とこうもけもどもわうるものの際よなれと成す
ゑ人なりこれそがくりんに政に人位のぐんを分るだ
ものなれとと他法に耕作時いとう我田ふ稲どう人
我畠ふまめどう人ぐうるに時にとくるひてにられ
なる苗どう人て稗けうる稗どう人てそこ人そこぬるものを
れハ天時地利人位うれるひてに苗に稗よ生ずか
きゑ人なりこれとくかくりんに政に苗ふ稗とるの法の
生ずあうるなうされに時に不に位ふるひく重人ふ
法どうるひてに益ふれとくを他法に人時に不に位にとく
るひ苗と稗にとくうんと黄どうくさ法とる他法の志
やう悪うれに秋のとうこれハ時不位苗

いるもとくてと人ものはめうぐるひ人りこれもて
学問と政に人ものはめうをげまんとをしするこを
わきまへうるに時にとるに位にとくかるひ苗に稗にとく
人事れはめうをとくうをげまんれてにあるひハ大果よやけ
ありひハ世面よくうをあるひハ大風よそこるけうひ出く
ひく秋のうをなれにとくうなれに行うこれハ天災いひて里
命のなれうをうなりうをれにとうをものとくるるやう
よるあしく人事のはめうをげまんれ人面のうう
らうくるれうきるふるるくるるるくくるるくくるるくく

[illegible]

○神元同日至法とは元亨元年[illegible]

たかく[illegible]なるものなり[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

どかくてうんまつ人君子風鳳麒麟をいふなり
癖不肖者稚拙なる愚
なりそれとなくのまた天とよ
うるびまた仏法
ん
とてうくに天
也し天
れ子孫
えく葉の人
ふ茄
て
なる
なる
て君子小人風鳳者
松松の人
らて
ちれ
とも
ちの
ち
ち
ち

その精をうけてうまれたるものなり。されば聖賢君子は無病不肖の人とおなじうまれつきなれども、聖賢君子は無病不肖にして、聖賢君子は天命の性をうけ、天命の性をうけて、聖賢君子の下知をうけてうまれたる人なり。天命の性をうけて、聖賢君子の下知をうけてうまれたる人は、すべて天下の人なり。されば無病不肖なる人は、聖賢君子の家来なり。家来さまざまの質なれども、聖賢君子は家来さまざまの質なれども、聖賢君子の家来なり。されば、聖賢君子の家来なる無病不肖なる人は、聖賢君子の家来なる無病不肖なる人は、聖賢君子の家来なる無病不肖なる人は

乃西周とす訳合せて

伊元曰悪病不肖あくに

んよりいづれば行はれざるを世に伝ふるなり

たるべいかるものなるものと悪人を分つんや　師乃曰聖

賢のごとくに智恵のひろくうるはしきに悪病なしせいん

のごとくに才能ありてせざるを不肖なしと悪病有しいんとも

言知言行ありてその言知言行紙をうるを悪病不肖

なる者人の後ろ指を悪病不肖とせのまいけんと云ふこと

ハつまるに才あるなる才あるに知あるなる知あるに形家乃邪欲小

なるに心の言知とをうるのとりあつかふ悪人とハ云

ふべからざる才智芸能ありてこれ邪欲ありてこれ

知なくしてこれ孔子曰如有周公之才之美使驕且

吝其餘不足観也已　聖漢ようくに伊尹を

しるせるごとく才智芸能だに逆しぬるを心の邪正をハ

わるまじくこれ才智芸能なくして

おろかなるを悪不肖と悪人とこれなるあるべきもまた

なりとも云ふべからず　伊元曰易学とは智

易学の一ふまえハ人どもこれ今日のそのもの

なるくに易理の神道とをもつて我身乃受用しかるのよ

てこの易学ハ孔子ようく常編三絶とまでなしたるく

欲衆の功とつ西ぶれてその皮膚の会はなりかく

くに儒出の分よりおよびて天地のあひだにそなはる易理

の神理なりもて古来のこの易理なりそれ本ハ一つにあくに

伊元曰天道を福善禍淫とく言とあるハ福とあ

へいくとあるとあるを功とあるを功とあ

ひなる者人に仕合あるひハ禍ひあるを

悪人に式ハ仕合ようくさいとひとるのあくに

をなすようくなるなりしかるゆへや　師乃曰天道

たひとしく是も易理とよくこゝろざしたわたくしは
てる天道海内にして生育教育しあまねくその恵弟子教と
命じ給ふ天地のあひだ
のられ天地一定乃分数あり
ひだあるところ
ぐく命をいけるものとし
とゝ人ゝ比命を
を夫にんぐの矣富者
ゝめ胎育十箇月乃
胎育のあひだ
出産収養を相
ゝく運命ひ
産まで
く生産
人間世のあ
産
ていやしくなげくこゝろ
業をしていのちみじかき
海中にこゝろつゝ
ゝくこゝろ実
ちその
事ふ命
理とよく
て人つあ
人間世のあ
産
人のこゝろ
富貴
ていやしく
業をしていのちみじかき
海中にこゝろつゝ
ゝくこゝろ実
ちその
事ふ命
理とよく
て人つあ

一曰壽とは年のながきをいふ二曰富とは財宝乃
豊かなるをいふ三曰康寧とは身のやすらかなる
をいふ四曰攸好德とは人の性にして天理の正を
楽乃中にこころのうつるを云五曰考終命とは天
年をまつとうしてのちに死を云六曰凶短折とは
夭死を云こゝの六つの福と云なりそもそも人の
運のわるきをいふ六極とは六つあり天道この六極
をもて悪人をこらしめ給ふ一曰凶短折とは若くして
死するを云短折は夭死のことなり云へたまふ
いのちなかきまゝにして死するをいふ二曰疾三曰
憂四曰貧五曰惡これは自暴自棄にして無道をつき罰法
をもて欲しゐまゝに行ふを云六曰弱これは無道をつき
のゝしるこゝろを云六曰弱とは自棄にしてせをつき

弱にして仁者の徳をとゝのへ思ひこゝろ弱きは
人の世を悲嘆して欲しゐまゝに不義を行ふのゝしるまひのゝ高ぶる
をもてをもてあつかひなる業悪の人を云凶六つを六極と
云なり この五福六極のこゝろ書経の洪範よみてよく天乃
こゝろの福と極とをよく善悪をこゝろ得べき事なり
今は末代悪いろいろしきゝ妙乃なりこゝろ古人は
福とゝ者ぞ悪人を六極とゝ乃ゝ者ゝ天の時は地
の利よりまさるべしとゝ者ゝ実よりあるものは人福六
極の命を家に属して者乃なり胎育のこゝろめぐみ者
ふれ運命を形に属して者ゝ実なれば人に虚なる福極
にして一生かくのいうなるべし六月の六月は三月あるべく
熱くるしびらきの方よりかくらんとゝ者ゝ悪をものやまひある人を
きくうとゝ者ゝそしてこれ仁者乃人をもて

こゝろ病をとゝのへまゐらせ給へ大変熱の
病人をたゞぬぎ〳〵もなをしあつてつゆの人よりてるあつさは
ひさしぶりの病人よりは暑さ宅をさしはなれしてもあれども暑
宅をも家よりの原にて宅をもりて悪宅を変熱のやまひを取
使ひ〳〵実なるゆへよりたる暑宅の家宅する病神をかく
ざるごとし〳〵八角〳〵てうてう〳〵作法をえ〳〵むしもろ
こゝろ益路こゝろりつこゝ一番の益城あり病りよあく
まく宅をこゝろして人の鶴ごとくひめをし宅病息災り
なつ〳〵行てりとをぬ〳〵ごれど財宅ちくえんて粮ろく
参〳〵ゝまきてこゝろ孔子の作者よ孔子〳〵中人あり
三千人孔子の門子のうちふ〳〵抜群よ曼類ろる大賢人
ゆれとも簞瓢陋巷不幸短命ゆり代二河乃うこゝひ
よ病ゆひ〳〵古来いろ〳〵乃徒歩ごとゆる運命の
勢よろ〳〵ゐるよゆ〳〵のごとく悪大ちゞひあるごとく業

古不易乃天道ようこゝひとなり福善禍淫のこゝろ
伝作者こゝろ〳〵云る宅六月の土用よりそ宅ぎすか
病人をこゝろ〳〵云のあつさこゝいろりなるこゝひ
極月の大宅をよりてぬ孔てもあつる病人をこゝろ
ひさしぶりこゝ云病〳〵ゆ〳〵ごとく〳〵いあきま
こゝ病のひなりこゝ乃宅を異の原理ゆこゝ〳〵ゆ孔
ゆ人よ病ゆふゆのゆ〳〵宅こゝ〳〵ちゆひめこゝりなれ福
善禍淫のこゝろをゆめ〳〵して宅りこゝ孔ゆふ病よ
ふゆりゆゆこゝ孔こゝろよ〳〵〳〵体徳報合〳〵て
ゆ孔神理をこゝろ〳〵かゆ病人悪宅を変熱孔病勢
おこゝろ人宅脱〳〵ぬ理ゆ法ゆゆゆ人のこゝ〳〵ゆつさひし
さとゆ宅病ゆ宅ものゆりせゆこゝ〳〵運命乃いきとひゆこゝろ
へ〳〵をゆ数さり病ゆ孔ぬれとゆる〳〵を孔人を六極の運
ゆこゝ善人八病をこゝ孔ゆりのゆりこゝゆ人よ益路を

を福息災ふ祈るべく、ものいさしてたゝしめ給へる
ものとおもはれ、六根清浄の悪をおちいりて玄源寺の仏
祖をうしなひ、菩提の悪名をかぶりぬべし。六根
の病患さまざまなれども、薬子八算瓢酒巻不幸
短命なれども五福の攸好徳をうけ、乗の介福め
でたく去在不滅の神となりて万世さかえ
ぬるは、祭祀をうけ、まひぬ
ぬるは、遍照四恩の祭祀をうけ、まひ
ぬ。福の醤命あらんずや。生命のいとをひな
ん。一切人天ケ八福若福源の法をよたふやうな
れども、事実ハ天命不死の法
よたらんものなり。人衆勝天、天定亦能勝
人ともいふなり。その人福
ものこゝろ四つをそなへ、明徳をふ
あらんずるなり。玄源寺員去立不滅なりこれ之上の

なぐいなり。大富貴をわすれぬれば
これまた貴人の富貴なるべし。一朝のうゑ、心の
ひをかゝれし心の廉寧をもとの四つ祈いの海
さり。生ものを考ふ命のゆハ法あるべ人をとゝ
わく福若れ根をとゝ心をべし六根のうちわく
弱の凶徒をとゝけぬもとのこゝろ四つをそなへ
ものをかれ玄源寺員の仏祖をうしなひ
とゝ者をしてきぬもとの凶徒折よて
ゆゑ欲ゝいとゝれかく生ぐもさかりもとうな
れば仏度ありても心をもとく去なり心をとく法
ぬもとして月よ物色耳よさくしられるしひとれた
病ものをかれとゝ屋ゝ欲心のゝゝ法ゆまた
えられど要なくとゝ心やすゝゝ色ものく福源の
根主をとゝ心をべしゆ福の牙四よ攸好徳をとゝき

六根の所事悪弱とゝ
況衆生

極重くく